

令和 7 年度 第 1 回高等学校入学者選抜審議会 記録

令和 7 年 7 月 2 5 日（金）午後 2 時～午後 4 時
県庁 1 1 階 第二会議室

＜審議会専門委員＞

田端 健人 委員、熊谷 龍一 委員、高橋 千香子 委員、笠原 由佳 委員、平塚 隆 委員、
新妻 英敏 委員、伊藤 宣子 委員、菊池 晃子 委員、鶴岡 勝彦 委員、猪股 智秋 委員、
樽野 幸義 委員、勅使瓦 理恵 委員、菅原 紀子 委員、佐竹 潤一 委員
（欠席：坪田 益美 委員、川嶋 輝彦 委員）

＜事務局＞

佐藤 靖彦 教育長、遠藤 秀樹 副教育長、菊田 英孝 高校教育課長、
永田 靖和 高校教育創造室長、本田 史郎 義務教育課長、
（欠席：後藤 正樹 副教育長、千葉 潤一 副教育長）

○ 開会

事務局	(資料の確認) (公開の確認) (開会) (委嘱状・辞令の交付)
	(委員の紹介)
教育長	(教育長あいさつ)
事務局	(県教育庁関係出席者紹介) (本審議会の概要説明)

○ 諮問

委員長	(委員長 司会進行開始)
	それでは、次第に従って進める。 初めに諮問となる。事務局からお願いする。
事務局	諮問文を教育長から委員長へお渡しする。委員長、教育長は御移動願う。 委員のみなさまは、資料 1、諮問・審議関係資料 1 ページの諮問文を御覧願う。
教育長	(諮問) 「令和 9 年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について」 「令和 9 年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について」
事務局	ただいまの諮問について、読み上げて確認する。 (事務局による諮問の読み上げ) (別紙 1) 「令和 9 年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について」 (別紙 2) 「令和 9 年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について」
事務局	佐藤教育長は別公務のため、ここで退席させていただく。御承知願う。

○ 審議 (1) ideal スクールの入試制度について

委員長	では、次に審議に移る。審議 (1) 「ideal スクールの入試制度について」である。 昨年度設置した専門委員会において、ideal スクールの入試制度のあり方について、 調査研究をお願いしていた。調査研究についての報告を、専門委員会の熊谷委員長 からお願いする。
熊谷委員	(熊谷委員より説明)
委員長	熊谷委員長、ideal スクールの入試制度についての調査研究、議論、また案の取 りまとめについて感謝する。ただいまの報告を踏まえ、ideal スクールの入試制度

	について質問や意見をいただきたい。
伊藤委員	ただいまの報告を伺い、大変感動している。昨今の中学生たちの姿、そして迷える高校生たちの姿を見て、これこそが宮城の教育ではないかと大変嬉しく思っている。この学校に入学できた生徒たちが、人間としての生きる力を開花させ、宮城の元気を作ってくれてくれる、そんな学校に、日々改革を重ねながら、実態にあった形で、そして、問題提起をどんどんしてくれるだろうと、私は子供たちに期待している。この問題提起をしっかりと凝視しながら、どのようにアイデアを練り上げていけばいいのだろうか。そのような形で宮城の教育の1つのモデルケースになるのではないかと感じている。
委員長	御意見に感謝する。 ideal スクールへの期待は関係者としては非常に大きいと思うが、多様性の幅が広く取られており、先ほどの報告にあったように、学力検査を用いるか用いないかで、様々意見が分かれるところがあったと思う。他県の例を見てみると、学力検査を入れている都道府県、入れていない都道府県がある。学校にあまり適応できなかった生徒さん達にとっては、学力試験があるとやはり敷居が高くなる。また、四年制大学を目指すとなると、やはり学力試験の結果は入試として必要になるだろう。そのあたりの議論はどのようであったか、お話いただきたい。
熊谷委員	指摘のあったとおり、様々な背景を持った生徒、様々な目的を持った生徒が受験をするところに配慮をし、委員から様々意見をいただいた。様々な生徒、背景に対応できるように、学力検査、面接、調査書それぞれを複数組み合わせながら行う制度を提案したところである。非常に難しいところはあり、これで全てのニーズや背景を網羅できるのか、足りないところはないか等の意見も様々あったが、これでおおよそ多くの生徒さんの希望、様々な背景等を掬えるのではないかとということで意見がまとまったものと認識している。
委員長	説明感謝する。 6 ページにある選抜の順序について、ideal 選抜から共通選抜という順序とのことだが、A、B、C の3つの方式の後に共通選抜を行うということではよいのか。
事務局	ideal 選抜を先に行い、その後に共通選抜を行うという順番については、先ほど説明があったとおりである。 専門委員会では、ideal 選抜の中のA、B、Cの選抜順序についても、様々議論をしていただいた。数値を用いたシミュレーションも行い、慎重に検討していただいたところであるが、ideal 選抜の中の詳細な順序については、今後、学校説明会等で、入学を希望する生徒の様子が具体的にようになってきたところで、高校であらためて定めていくのがよいのではないかと、という方向で議論が進められていたものと認識している。
委員長	5教科の学力検査は、不登校の子供にとってはインパクトが大きい。表記の仕方として、5 ページには「共通選抜、ideal 選抜」の順で記載されているが、「ideal 選抜、共通選抜」の順で記載し、共通選抜がセーフティネットのようなイメージになるように記載してはどうか。
高橋委員	保護者の立場で気になった点がある。3 ページに記載された委員の意見の中で、意欲の評価について、対人関係に問題を抱えている生徒も多いと考えられることから、当日の面接のみでは力が発揮できない可能性があるという記載があるが、ideal 選抜だと、面接点が募集定員の90%の子に対して得点化されているところが気になる点である。その点はどのように考えているか。
熊谷委員	面接点については、3つの方式の中では、A方式では、まさに面接点で選抜することになるが、B方式やC方式では、面接点とその他の組み合わせで選抜することになる。全員が面接を受けることになっていることから、少なからず評価に入ってくる形になっている。 このB方式やC方式について、面接点とその他の検査の得点を何対何にするのかといった割合等はまだ決めておらず、高校で実際に決めていくということになる。

	審議の中では、面接で緊張してしまう生徒や、喋るのが難しい生徒もいることから、面接点の割合が過度に大きくならないようにと検討を進めてきたところである。
菅原委員	面接について、本校の様子と合わせて意見を述べたい。 本校も定時制の学校であり、今回提案のあった制度ほど細分化されていないものの、似たような入試を行っている。対人関係に問題を抱えている生徒の中には、緘黙や、その場にいと喋れなくなってしまう子も少なからずおり、その対策として、本校では面接で筆談のようなものを取り入れている。 そのような中で、志望理由書の提出は非常に影響が大きいと感じた。生徒が何を考えているかをある程度分かった上で面接に臨めるということは、面接をする側にとっても、発問、質問の工夫につながる。このような点もさらに検討して導入いただけると、後々には本校でも導入できるのではないかと考えている。よろしく願いたい。
熊谷委員	面接の方法及び評価については、これからも高校の方で決めていくということである。ぜひ参考にさせていただきたい。
委員長	様々な意見感謝する。ideal スクールにおける入試制度の詳細については、本日の報告と審議を踏まえ、事務局で引き続き検討願う。

○ 審議（２）令和９年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について

委員長	次の審議（２）「令和９年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について」について、事務局から説明願う。
事務局	（事務局より説明）
委員長	以上の説明について、質問、意見をお願いする。 １点確認したいのだが、仮称とした括弧付きの名称というのはどこのことか。
事務局	資料１の３ページである。「９ ideal スクールにおける選抜」という項目の３行目にある「（ideal 選抜）」という記載である。専門委員会では、「ideal 選抜（仮）」という形で検討しており、名称が確定していなかったため、資料ではひとまず括弧付きで表現した。
委員長	この括弧付きの名称を含めて意見、質問をいただきたいが、いかがか。
	（異議なし）
委員長	特に意見はないようなので、資料の形で進めていただきたい。また、ideal 選抜についても、専門委員会での名称を用いてきたということから、この名称で良いのではないか。

○ 審議（３）令和９年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について

委員長	次に審議（３）「令和９年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について」、事務局から説明願う。
事務局	（事務局より説明）
委員長	以上の説明について、質問、意見をお願いする。
樽野委員	今年度、令和８年度入試からオンライン出願が始まるかと思うが、二次募集の出願もオンラインで行う予定か。
事務局	二次募集もウェブ出願システムを使って出願を進める予定である。
樽野委員	二次募集もオンライン化したときに、二次募集の出願期間については、令和８年度入試も、９年度入試の案も３つとも３日間確保してあるが、３日間は必要か。例えば、２日間ぐらいで良いのではないか。
事務局	日数については、ウェブ出願システムでオンライン化することによって、短縮も見込めるものと考えている。ただし、システムをまだ実際に走らせておらず、先生方や受験生が操作に慣れていないこともあり、実際にどの程度の期間が必要になるか予想できない部分もある。当面、これまで同様の日数を確保しておき、実際にウェブ出願システムを導入した後、どの程度の日程が必要かということ把握したうえで、必要な日数について検討する必要があると考えている。

樽野委員	もう一つ質問したい。事務局からは案2が示されているが、高校現場の希望としては、卒業式が終わり、1日空いて学力検査日という日程は少し厳しい。卒業式が終わり、次の日にもう入試の準備に入って、1日だけ空いて学力検査日となると、本校の場合はかなり厳しい。 例えば、案1のように3月1日の卒業式の後に2日間を開けて学力検査日を設定したうえで、第二次募集の出願期間を3日間としているところを2日間にして、第一次募集の合格発表を1日下げる、または、第二次募集の合格発表を上げるという形も考えられないか。
高校教育課長	先ほど第二次募集の出願について3日間と説明した点について、ウェブ出願で短縮できるのではないかという意見をいただいた。確かに、実際に実施してみたうえで短縮が可能かどうかの検証は必要であると思うが、もともと第二次募集の出願に関して3日間確保するのは、第一次募集で不合格になった受験生に対して、精神的なケアも必要であることから3日間必要だという中学校からの要望を受けて、例年、3日間を確保してきたという流れがある。したがって、ウェブ出願になれば単純に短縮できるということではなく、これまでの流れも踏まえて検討する必要があると考えている。
伊藤委員	私立の学校からすると、第2案でお願いしたい。 ネット出願に移行してきたことについては、大変希望の持てる体制によりやく入れたと思っている。生徒も保護者も学校教育現場も、もうネットなしに生活はでない状況になっていることから、ネット出願について心配はなく、効率化することで生じた時間を、子供たちの最後の学力の向上のための時間として捉えていただきたい。 私学としては、年度末の動きを考え、第2案でお願いしたい。私学も大変厳しい時代に入っており、二次募集もしなければならない。そのようなことを考えると、子供たちにも、保護者の皆さんにも、学ぶ場所として、私学もきちんと見てほしいというメッセージを送り続けたい。したがって、そのための時間がない、日程が下がっていくということは避けていただきたいと切に願っている。よろしくをお願いしたい。
委員長	卒業式後に1日開けて実施する案について、高校にとって負担になるということと、第一次募集で不合格であった生徒さんに対してのケアが2日間が良いのか、やはり3日いるのか、というところが検討事項である。 2日で良いとなると、ウェブ出願をスムーズに行えるとした場合、案1において、第二次募集の日程を23日から18日に上げることもできるかもしれないし、案2において、19日を18日に上げることも不可能ではないかもしれない。そうすると、全体に日程が上がっていくというメリットもある。いかがだろうか。
新妻委員	3つの案を比較したときに、案1か案2ではないか。 中学校現場の立場から話すと、中学校の卒業式をどこに設定するかについては、もちろん各中学校が決めることにはなるが、例年の状況からすると、おそらく3月6日の土曜日に卒業式を設定するケースが多いものと考えられる。このとき、案1だと、卒業式の前日まで第1次募集の面接等が入ることになる。中学校現場としては、第一次募集が終わった後に1日開けて卒業式となるように組んでいくと考えると、おそらく案2が良いのではないか。高校のスケジュールが厳しいことはわかっているが、保護者が中学校の最後の卒業式に出ることを考えると、案2の方が良い。
委員長	高校の卒業式だけでなく、中学校の卒業式のおおよその日程についても、このカレンダーに入っていると検討しやすいかもしれない。
猪股委員	私も案2が良いと思って見ていた。十分な日数が確保されているというところで、ここが妥当かなと感じている。 また、二次募集の出願期間について3日間ということが先ほど議論になっていたが、中学校の進路指導では、まずは第1希望、万が一ダメだった時は第2希望とい

	うように、子供たちの中ではその道筋、進路決定はしてある。したがって、本当に3日間必要かと言われると、2日間でも可能である。もしダメだったら、ということも踏まえて進路指導をしていることから、先ほど中学校から3日間あったら良いという話があったとのことであったが、実際は大丈夫ではないか。
菊池委員	公立の中学校としては、3日間あれば嬉しい。じっくり話をすることができることから、3日間あれば良いとは思いますが、先ほど高校の話を聞き、第一次募集の準備を1日でするとしたら、高校が大変だということがわかった。中学校の立場としては、3日間あれば良いとは思いますが、2日間でも可能である。第一次募集でうまくいかなかったときに、そこからもう1回考え直す子は非常に少ないと思われる。先に決めていることから、2日間でも可能と考える。ただし、3日間あれば嬉しいとも思う。
委員長	案2を推す声が多いかと思う。第二次募集の出願期間を2日間とするか3日間とするかについては、ウェブ出願がどのくらいスムーズにいくかということを考慮し、うまくいかない可能性も見越して、安心なところは2日間よりも3日間の方がベターであろう。高校において、卒業式後の1日で会場設定等々を行う大変さあるが、様々な条件からすると、案2がベターという意見だったと思う。
伊藤委員	ウェブ出願、ネット出願など、ICT環境はどんどん進化しており、採点マシンも出てきている。入試業務の処理が非常に短時間で、効率的に、かつ正確に行えるということを私たちは実証している。そのような状況を踏まえ、令和8年度及び9年度にやってみて、その上で、子供たちの、受験を通した育ち、育みに焦点を合わせた日程の検討もさらに進化していくのではないかなと期待している。
委員長	採点の機械化、コンピューター化のようなことも中期的には視野に収めながら、より効率的、また省エネ的にできる方法も検討いただきたい。 令和9年度宮城県立高等学校入学者選抜方針及び日程については、各委員には本日の意見を参考にさらに検討いただき、併せて事務局でも吟味するという事で、これに関する結論は次回ということにさせていただきたいがよろしいか。
	(異議なし)
委員長	それでは、諮問案についての審議は以上とする。

○ 報告（1）令和7年度宮城県公立高等学校入学者選抜結果について

委員長	次に報告に移る。 報告（1）「令和7年度宮城県公立高等学校入学者選抜結果について」、事務局から報告願う。
事務局	(事務局より説明)
委員長	報告に感謝する。この件について、質問等はあるか。
	(質問なし)

○ 報告（2）令和8年度宮城県公立高等学校入学者選抜について

委員長	次に報告（2）「令和8年度宮城県公立高等学校入学者選抜について」、事務局から報告願う。
事務局	(事務局より説明)
委員長	ただいまの報告について、質問、意見があればいただきたい。 ウェブ出願について、手書きにしたものをPDFにして提出するといった都道府県があったかと思うが、宮城県ではどうか。
事務局	今回導入するシステムでは、調査書のデータについて、Excel等の電子データ化したものでアップロードすることを想定し、現在開発を進めている。
伊藤委員	調査書の6番、「特記事項」にはどのような内容を記載するのか。
事務局	特記事項の欄には、該当する項目について特記すべきことがあれば記載することとしている。選抜要項には、就学中の転編入学に関すること、各教科の学習状況に関すること、行動の記録に関すること、健康状態に関すること、進路に関すること

	等について記載することとしている。
--	-------------------

○ その他（１）全国募集について

委員長	次に、その他として「全国募集について」、事務局から説明願う。
事務局	(事務局より説明)
委員長	説明感謝する。 本県の全国募集については、ただいま説明があったとおり、中新田高校と南三陸高校との２校をモデル校として指定し、令和５年度入試から生徒を募集している。令和５年度の入学者が現在、高校３年生となり、これから卒業し、進路を歩むことになる。 事務局からは、宮城県のモデル校２校について一定数の生徒が応募してきていること、また、全国的にも全国募集が広がりを見せていることについて説明があった。ただいまの報告について意見、質問があればいただきたい。
菅原委員	時限的なモデル校の位置づけを早期に検討する必要があるということであったが、要は、令和１０年度を待たずに、早い段階で、モデル校ではなくて、今後、恒常的に実施していくということを進めていきたいというように理解したが、それではいいか。
事務局	そのとおりである。
菅原委員	承知した。県内の南三陸高校との中新田高校の状況を見ると、年々全国募集による入学者数が増えてきているということ、また、全国的な規模で考えても、全国で取り組んでいる校数や入学している生徒が増えてきているということ。そのような状況の中で、東北を見ると、宮城県は高校の数は多いと思うが、まだ２校しか実施していないということを拝見した。全国的にも一般化されているこの全国募集について、もうモデルでなくて良いのではないか。 将来構想にも関わってくるところかと思うが、今取り組んでいるこの２校の取り組み状況について、早い段階で分析をしていただき、我々に示していただければ、今後、他の県立学校の在り方にも関わってくるものと思われる。この２校は、それぞれの学校の魅力化を図りながら、地域とも非常にうまく連携しながら進めており、大変参考になることから、ここでの取り組みを早急に示していただいたうえで、この２校については、令和１０年度を待たずに、恒久的な実施校としていければ良いのではないか。
委員長	モデル校２校について、日程を前倒しし、モデル校でなく実施校として位置づけることと合わせて、この全国募集というものを、今後積極的に他の宮城県立高等学校でも広げていくという方向についての意見もいただきたい。 ちなみに、先ほど県立高等学校の将来構想についての話が出たが、今回、高校教育創造室からも参加いただいているので、少子化の状況や、これから１５年先の宮城県の中学３年生卒業見込みの人数がどのくらい減っていくのか、また、充足率や倍率について、０．８や０．９という数値が先ほど報告されたが、１倍を超えていないという状況はどうなのかということについて、情報共有していただきたい。
教育創造室長	今後１５年の見込みについては、中学校の卒業生数は、令和２１年度までに県全体で約４割減少するというような状況がある。そのような状況を踏まえ、今年度の策定に向け将来構想について別の審議会でも意見をいただいている。 そのような状況の中で、結論は出ていないところではあるが、方向性として、県立高校の魅力化を図っていくということと、より一層地域との結びつきを深めていくということは、大きなところとして変わらないと思われる。そのような意味で、このような全国募集を手段の一つとして盛り込んでいくということはあると考えている。
委員長	今の説明や事務局からの報告について、意見をいただきたい。
樽野委員	このモデル校２校の様子を校長等から聞くと、中新田高校にしても、南三陸高校にしても、町の協力を得て、順調に進んでいると伺っている。 しかし、モデル校のままだと、いずれやめなくてはならないということにもなりかねないことから、早急に実施校として、中新田高校と南三陸高校については、継

	続していただき、そのうえで他にもどこかできないかということを考えていっても良いのではないかと考える。 これも聞いた話にはなるが、県外から来た生徒が、南三陸高校でも中新田高校でも、想定以上に、地元の生徒たちに大変良い影響を与えていると伺っている。子供の数が減っている現状において、穴埋めをするという視点ではなく、地元の子供たちに良い刺激を与えてくれる存在であるという見方もある。ぜひモデル校を外し、実施校として進めていただき、また、他にもできないかも見据えて検討して良いのではないかと考える。
伊藤委員	全国的な少子化時代ということで、子供たちの取り合いにならないように。 また、子供たちは親から離れて生活することになる。その 18 歳になっていく子供たちを、大変複雑怪奇な社会の変化から守っていくという大人の覚悟がないといけない。子供を招き入れるのであれば、その子供たちに対する教育責任といったところも一緒に考えていかなければならない。15 歳で、志を持って、全国の学校から選んだその夢を応援する、宮城県の覚悟が必要だと考える。 また、日本全国だけでなく、世界を見れば、家族ぐるみで日本に来て、日本で生活しなければならない子供たちも出てきている。そのようなことを考えると、国際編入試験というような形で、教育現場の大改革が始まっていくのではないかと考えている。
委員長	今の覚悟のところで連動するのは、身元引受人、それから寮であろう。寮で子供たちを見守ってくれる大人がいたり、また、南三陸では公営塾をやっているが、そこが大切な生活と学びの場になっていたり、そのようなところが充実していると、親御さんもずいぶん安心するであろう。 また、外国からということは必要な視点であると感じた。
平塚委員	岩手県の数字を見ると、非常に多くの生徒が来ている。その中の 1 つの町の教育長の話聞いたことがある。少子化の影響については、宮城県だけではなく、どこの都道府県も同様である。特に、農村部や、いわゆる漁村地域、その辺りについては本当に深刻な状況である。いかにして子供たちを集めるかという部分で、岩手県のある町でも、首長が中心になって、身元引受人ではないが、町おこしをしていこうというところが増えているという例を聞いた。中学校や小学校との交流や、特色を作って、「ここに来てよかった」と思ってもらうこと、また、もっとその先を見据えて、その子たちに、何人かでも良いのでこの町に残ってもらって、活性化を図ってほしい。そのような首長の願いがあるという話を聞かせてもらった。このような部分においては、非常に難しい問題がある。教育委員会だけの問題じゃないのではないかと。首長を含めて、そのような方々と連携を図りながら、高校をどうしていくか、そのような視点も大切であると考えている。ぜひ、その辺りについても検討いただきたい。
熊谷委員	モデル校から実施校に進めていくという方針についてはいくつか意見が出たが、私もその方針が良いと考える。 もし情報があれば教えていただきたいのだが、16 ページの表を見ていると、西の方の地域の数がかなり多くなっているように見受けられる。特徴的な取り組みや、東西での違いはあるのか。たまたま西の方が多くなっているのかもしれないが、学校数も人数も多くなっていることについて、何か要因はあるのか。
事務局	明確な数値による根拠は現在持ち合わせていないが、この全国募集の取組を積極的に推進した自治体のひとつが島根県と言われており、島根県の影響が大きいのではないかと推察される。
笠原委員	小中学生の保護者という立場からお話する。今、小中学校でも、地域と連携したコミュニティスクールといった取り組みがなされている。地域の方々や子供たちが連携して、地域に取り組む学校が増えてきていると思うが、高校生ならではの、少し成長した子供たちならではの視点でその地域を活性化していくという視点においても、全国から集まる様々な視点を持った子供たちと、地元の子供たちで、地域の活性化を進めていくという意味でも、様々な視点が入ってくることは大変良いことである。

	先ほどの説明で、現在、モデル校になっている２校については、地域ととても連携して様々な経験ができ、外から来た子供たちにとっても、中の子供たちにとっても、とても良い経験になっているということであった。保護者の立場からすると、志願者数が多いので少し難しいかとは思いますが、宮城にも観光科のような特色ある学校が多いので、ぜひ、様々な方向から検討し、外からの子供たちにも宮城の魅力を感じてもらえるような制度にしていきたいと感じた。
委員長	ここまで出た意見としては、モデル校を外すという意見が主流だったかと思う。私自身も、もうモデル校ではなく実施校として、少し前倒しで進めないと、周回遅れ、それ以上の遅れになるのではないかと考えている。場合によっては、さらに戦略的に考え、例えば、12 ページのモデル校に対する４つの条件のうち、倍率 1.0 倍未満を３年という条件なども考え直しても良いのではないかと。本県で、魅力があり、充足率が高い高校について、全国的に拡充して、本県の県立高等学校の魅力を全国発信するという考え方もあり得る。そのような方向性も検討していただくことも踏まえて、本日諮問のあった令和 9 年度入試の選抜方針について、モデル校を正式な実施校とすることが良いのではないかとという結論になると認識している。その他の学校への拡充については、その条件等について、次回の審議会で検討できるかと思うが、いかがか。
伊藤委員	先ほど委員長から、少子化の実数はどうなっているかという発言があったが、３歳児の数と今の子供たちの数を数えてみると、本当に驚くべき少子化に入ることが分かる。10 年はあつという間である。３歳児の子供たちの現状を考えて、もう動き出さなければならない。 魅力ある宮城県である。私は宮城県が大好きである。どこの県よりも宮城県と考えると、まだまだやるべきことはたくさんあるのではないかと。そのような点で、先ほどの委員長の声は大切に実行に移していきたいと考えている。
委員長	他に何かあるか。 それでは、令和 9 年度入試の選抜方針の調製を、事務局でお願いします。また、全国募集を拡充する上での条件等については次回検討することとし、事務局には、検討のための資料の作成をお願いします。

○ 閉会

委員長	その他として、委員のみなさまから何かあるか。 事務局から何かあるか。
事務局	次回の予定について連絡する。 今年度第 2 回の審議会では、今回諮問した令和 9 年度宮城県立高等学校入学者選抜方針及び日程について答申をいただきたいと考えている。 なお、第 2 回審議会は 11 月中旬から下旬頃を予定している。日程調整について、後日メールで連絡を差し上げる。
委員長	それでは、次回の審議会については、現段階では 11 月中旬から下旬ということで、事務局に調整をお願いします。 本日の審議はこれまでとし、進行を事務局にお返しする。
事務局	(閉会)